



# ニュースレター

弊センターでは、DuEX、HRAM を含む MMDS センターの活動を広く認知していただくため、ニュースレターを刊行しています。関係する教職員の教育・研究活動や近況、インターンシップに参加した学生の体験記や DuEX 奨励金制度を活用した学生の活動報告など、毎回様々なコラムを通して、学生、大学関係者、企業関係者の皆様へセンターの活動をご紹介します。

## 第 10 回全国合同インタラクティブマッチング (大阪開催)

文部科学省データ関連人材育成プログラム (D-DRIVE) では、個別の大学の取り組みを超えた産学協同の可能性喚起とデータサイエンス関連人材の全国的な育成を目指し、学生と企業担当者との交流を通じたインターンシップの調整を行うイベントを、各年度に大阪・東京で開催しています。今春は大阪大学を幹事機関として、第 10 回全国合同インタラクティブマッチング (オンライン面談 6/10~6/21, 対面交流会 6/22 @大阪大学 中之島センター) を開催しました。参加企業 9 社、学生は 4 大学から 13 名の参加でした。開会式で若手人材育成や企業と学生の連携の講演、インターン報告会が行われました。対面インタラクティブマッチングでは、学生と企業の交流を深めるための工夫が施され、学生の PR ポスターには企業の名刺を収納できるカードホルダーが付き、企業と学生の自由面談が 3 回行われ、合間に各フェーズに即した進行案内がありました。企業選択のポイントを各社から頂き、日立システムズの板井さんは次の 4 つを満たす企業を選べば、入社後の後悔を減らせると仰っていました。①成長環境: 高度な知識を活用した仕事に携われるか。②仕事仲間: データサイエンスで価値創出できる仲間がいるか。③責任と裁量: 自分で仕事を進める環境があり、過度な責任を負わないか。④報酬制度: スキルや成果が報酬や昇格・昇進に反映されるか。学生さんからはオンラインだけでは分からないことが対面面談で知れ、実務をもっと体験したいという声もありました。また、企業実務と大学研究の違いについても意見交換が行われ、企業側から具体的なアドバイスが提供されました。最後に、大阪大学の鈴木貴先生から「世の中を良くしていきたい意思と自信を持って世の中を変えていって欲しい」など激励の言葉が贈られ、国からの支援で行われる各種イベント情報が提供されました。これをもちまして、交流会は成功裏に終了しました。



## 「数理・データサイエンス・AI 人材育成を牽引してきた DUEx への感謝」

DuEX が発足以来、早いもので 7 年になったとうかがいました。鈴木貴先生をはじめとして、この間大変なご尽力をされた関係者の皆様に敬意を表します。7 年前の 2017 年は滋賀大学に日本初のデータサイエンス(DS)学部ができた時で、私自身も学部設立に奔走しておりましたので、時の流れを感じるともに、この分野をとりまく変化にもあらためて驚かされます。数理・DS・AI 分野の人材育成には、さまざまなレベルや方向性があり、滋賀大学ではまず学部学生を育てることに取り組みましたが、DuEX では博士人材の育成に努められました。特に多数の企業と連携した実践的な教育プログラムにより、数理・DS・AI 分野のトップ人材の育成を牽引して来られました。

我が国のこの分野での人材不足が強く意識される中で、2019 年には内閣府の AI 戦略 2019 が策定され、そこに示された形で文部科学省の「数理・DS・AI 教育プログラム認定制度」が開始され、多くの大学でリテラシー教育が始まりました。またデータサイエンス系の学部の開設も続いています。このように裾野が広がっている状況ですが、一方でこの分野の専門人材の不足は続いており、DuEX の成果が今後ますます活用されることを期待しております。



国立大学法人滋賀大学  
学長 竹村 彰通

### [今後のお知らせ]

- 第 9 回 数理・データ教育研究会  
2024 年 11 月 16 日(土)13:00 開場・ハイブリッド開催
- 第 6 回 データサイエンスセミナー  
2024 年 12 月上旬 (日にち未定)

### [編集後記]

コメント・寄稿頂きました皆様ありがとうございます。皆様からのご寄稿お待ちしております。(編集長 梅垣)  
本年度お読み頂きありがとうございます。今後とも宜しく願い申し上げます。(副編集長 ヌハ)